

令和4年度  
第2回岡山市文化芸術推進会議における主な意見

- 1 日 時 令和4年5月24日（火） 13時30分から15時00分まで
- 2 場 所 岡山市役所 本庁舎7階 大会議室
- 3 出席者 委員 9名
- 4 傍聴者 報道 1名、傍聴者 1名
- 5 議 題 岡山市文化芸術推進計画（素案）等について

6 主な意見

・「みせる」か「ひらく」という話があったが、私は「みせる」でいいとは思っているものの、ただ、「したしむ」「つどう」「つくる」「はぐくむ」「つなぐ」は主語があって状況を示す言葉だが、「みせる」というのはどの漢字をあてはめても主語の位置づけが違うような気がする。語感としてはいい。

・「みせる」について、主体は誰か。「したしむ」「つどう」は「市民が」。ほかはどうか。そして「みせる」を考える。簡単な言葉で表すことはわかりやすいが、主体が誰なのかと考えると、色々な立場が出てくるので、そこは資料で提示するときに工夫をしながら明確に述べていく必要がある。

・「みせる」は魅力という意味ではいいが、並びとして違和感があるので、統一する何かがいい。魅力の意味が伝わればいいが、少し心配。

・「みせる」より「ひらく」のほうがよい。開拓する、披露する、など色々な意味がある。環境づくり、情報発信などの具体的な取り組みに合致させるには、「ひらく」が意味を内包しており適している。

・主語がどうか、どういう姿勢で、とか気になったので「ひらく」のほうがいいのかなと発言した。鑑賞事業といっても「みる」ことだけが鑑賞ではない。もっと複雑で様々な体験が必要とされているし、実際行われている。

・地域の特色について、記載してあるということは「おかやまらしさ」「岡山型」みたいな、岡山市独自の特色みたいなものと考えていると思うが、本当に難しい課題である。

・地域の特色をどう出していくか。人口減少のスピードが想定より早いおそれがではじめている。人口減少社会の中で、地域はどうしていくのかを考えたときに、地域の特色をどう出していくのか、地域ブランドをどう作っていくのかが大きな課題。文化芸術活動は、地域ブランドをつくれる、地域資源である、というふうに認識している。文化芸術活動が岡山の地域ブランドにどうつながっていくのか、ということは検討すべき大きな目標。都市ブランドをどのように向上させるかについては、より積極的な活動が必要になる。

・「はぐくむ」は教育に関係しており、育成について、子どもの育成と担い手の育成があるが、子どもたちの育成は学校教育が中心、そうすると子どもたちと担い手の育成の間に、生涯学習的なもの、一般的な社会教育の概念があってもよいのではないか。同様に教育機関も記載されているが、図書館、博物館は社会教育的な機関だが、みなさん認識されているとおり、岡山市の公民館は文化芸術活動の拠点として非常に大きな役割を果たしており、公民館の役割や公民館活動をもっと記載したほうがよい。主催講座も会場利用もあり、文化芸術活動の市民的な広がりとなっているのは間違いない。公民館をもっと位置付けてほしい。

・さらなる担い手の育成のためには、学校教育の比重が高くなる。学校や学校教員の状況によって応募作品数が大きく左右されるので、学校教員への啓発も重要になるのではないか。教育機関と密接に連携をとってほしい。

・市民意識調査の結果で、岡山市の文化芸術イベントについて若年層が知らないのは大きな問題。児童生徒学生にイベントポスターを描いてもらってはどうか。描く人がイベントを意識できると、参加まではできなくても知らないことはなくなり一定の周知を図ることができる。

・音楽祭は、もう少し市民や音楽家が参加しやすいイベントを増やすとか、岡山のアーティストを活用するとか工夫していただきたい。集客力のあるアーティストを呼ぶのも非常に大事なことだが、もう少し市民が活躍できる、岡山にゆかりのあるアーティストが活躍できる、音楽祭にしてほしい。

・芸術家の数について、国勢調査の結果を利用しているが、意味があるのか疑問。職業としての専門家のデータだが、実際は、本業としていない多くの方々に担い手として携わっていただいている。そのことを補足説明で記載したほうがよい。

・芸術文化団体数について、多ければよいのか疑問。所属人数を指標としたほうが、文化芸術に関わっている人の実際をより表しているのではないか。

・データの数値がこのままでよいのかは、やはり疑問がある。文化施設の稼働率についても、毎日使われることは実質的に不可能で、かたや予約が重複し利用できないことも多い。

・効果指標として数値目標を掲げることが果たしてフィットするのか、ためらいもあるが、前回の会議内容や皆さんの意見を聴いていると、次世代の育成「はぐくむ」が重要な観点になる。効果指標にもう一つ、小中学生の主な文化施設の利用といったものを検討してみてもどうか。

・岡山城リニューアルにおいて、様々なイベントや取り組みを予定している。満足度アップに期待しているので、少し高めの目標設定をお願いしたい。

・ハレノワの活動内容がいまひとつわからない。具体的に何をやっていくのか、みえてこない。プロデューサーも決まっているのかわからない。最初に芸術創造劇場の名前を聞いたときに、様々なジャンルの文化、アートをひっくるめて、発信したり体験したりできる場所だと思っていたが、今はシンフォニーが音楽で、ハレノワは演劇という住み分けになっている、その他の美術とかが内包されるようなものではないという印象を少し受けている。岡山市では美術関係の一般市民の方の作品を展示したり、活動したりする場所がないと、市民的に色々話題になっている。既存の岡山シティミュージアムとか、これからできるハレノワもあわせて、空間的に使えて、うまく連携できるような仕組みがうまれると、7つのテーマがハード的にも機能するのではないか。文学も素敵、音楽もすごく盛ん、と感じているが、意外に美術的なものについては、イベントはあるが、市民活動を支えるベースのところ少し弱い。こんなことを目指してみたい、こういうふうな取り組みをしたい、しくみやフレームを整備していきたい、と計画の中で触れられるといいのではないかと。難しい問題もたくさんあると思うが、市民がもやもやしているところをスッキリさせる、前向きな計画にしてほしい。

・市民会館がなくなってしまうので、毎年していた大会とかシンポジウムとかがどうなるのか、文化芸術に特化してしまうと行き場がなくなってしまうのでは、という声を聞いている。優先的な予約など文化芸術に特化するのは特長があっていいことだが、それ以外の事業も含めて、市民会館がなくなったことを踏まえた運営をお願いしたい。

・かなりのボリュームなので、この計画でどういったことをしたいのか、私たち市民がどういうところで参加できるのか、市民にみえるように書いていただきたい。

・データをとることは難しい。数値だけに頼らず、気持ちが明確に表れているような計画書であってほしい。

・推進体制について、ラインナップのみでなく、連携した全体の体制を示すこと。コーディネーター的な役割、つなぎ役が重要になる。それぞれの役割分担をつないだ体制、岡山市らしい新たな文化芸術をコーディネートしていく体制、全体のつなぎが大事。そして、市民レベルでつながる必要がある。

・文化芸術活動は、アーティストから公民館活動まで広い。ひろがりつながっていくためには仕組みが必要。コーディネーターが居て仕組みがあれば、行政と一緒に推進

することができる。市民側に立ったコーディネーターが市民から色々な意見を吸い上げていけば、箱モノだけではなく、運用面でも進んでいくと常々思っている。そこがみえてくる計画だとうれしい。先のことではなく、今、考えている、としたい。